

感謝する心

私は結婚を機に石川台に住んで25年になります。石川台は緑あふれる自然豊かな地域です。近くの洗足池公園内には、沢山の野鳥が生息しています。池のほとりには勝海舟記念館も整備されて自慢の地域です。昨年度より雪谷石川台自治会役員としてスタートさせていただきました。緊急事態宣言が解除となり初めてクリーン大田に参加させて頂きました。短時間での清掃作業でしたが、各ブロックに分かれて、手際よく隅々までしっかりと行われました。作業を通しての真剣且つ迅速な行動は、やはり日頃から信頼関係を築き上げている手塚自治会長の誠実な人柄の賜物であると確信しております。皆さまの連携の良さに感銘を受けました。例年開催されていました地区スポーツまつりには家族で欠かさず参加させて頂きました。盆踊り大会と同様に昨年来のコロナの影響により2年連続で中止となり本当に残念です。コロナ禍のため、私たちの生活様式が一変して人ととの集まりが持てなくなっていることに対しては、会えなくて寂しい、早く再開してほしいとの声も多く聞きます。新年度を迎え、社会全体が明るく前向きに勇気の一歩を踏み出して行けば必ず良い結果が出ると思います。今だからこそ、人ととの繋がりを更に大切にできるよう日々感謝の気持ちを忘れず、地域貢献して行きたいと思います。

(雪谷石川台・内田 智明)

雪谷地区の表彰者

○関東地方更生保護委員会委員長賞

長谷川 正光

○関東地方保護司連盟会長表彰

伴 歩 船橋 健治

○東京保護観察所長表彰

蓮池 崇

○大田区区政功労者表彰

佐藤 春喜 鈴木 千乃 石垣 晴子 亀井 博美

遠藤 美枝子 川崎 勝一 永久保 光昭

松縄 哲夫 石坂 晓美

○大田区防災市民組織等感謝状贈呈

小山 勝 永久保 智之 松原 あづさ 若杉 健志

石川 流星

○大田区青少年表彰 模範青少年部門

尾上 智哉 直井 友哉

(敬称略)

「はねびょん健康ポイント」で健康づくり

健康に関する取り組みでポイントをためると、抽選で景品が当たります。楽しくおトクに健康づくりに挑戦してみませんか?

○対象

18歳以上の区内在住・在勤の方

○参加方法

・スマートフォンアプリ

・台紙(特別出張所などで配布しています)

詳しくはこちら→



ご苦労さん歩

人生年を重ねると健康と体力を維持したいと思うようになるのは、私だけではないと思います。

10年位前までは、地方のイベントやグルメを楽しみながら、ウォーキングによく出かけたものでした。

しかし、今コロナの影響もあり、区内をはじめ近場の区域が主戦場となったことを機会に区のアプリ「はねびょん健康ポイント」を活用し、ひたすら歩くことにしました。

このアプリで、はねびょん商品の獲得(今まで抽選で当たったことがありませんが)を目指し、区内の見慣れた景色であっても、季節の風を感じながら歩くとまた新たな発見をすることもあり、目の保養と頭の活性化にも役立っている気がします。

また、気分を変えて、品川方面をはじめ隣接する地域にも散歩の範囲を広げています。

一説によりますと健康には、1日7,000~8,000歩が良いと言われています、3年前の始めた頃「頑張るぞ」と意気込んで目標がなくだらだらと歩いたため、ややハードな設定であったので、はじめのころは、体重・ウエストが順調に減り始めて喜んできたのですが、デルタ株コロナが下火になるころからリバウンド現象が現れ、今は、元に戻りつつあり、悲しい状況が続いているのです。

そこで年初めに目標を定め、1か月単位で挑戦しようと思い、自分のご褒美言葉として、「ご苦労さん(歩)」と自分に言い聞かせながら59,630歩を実行し、月末の結果を楽しみにしながら毎日を過ごしています。

皆さんも区の推奨する商品のゲットと健康の維持向上を目指し、頑張ってみてはいかがでしょうか。
小さな目標ですが楽しいですよ。



(上池上・上池上五の住人)

＊＊編集後記＊＊

北京五輪・パラリンピックが開催され各種目の選手達の活躍が注目されている中、新型コロナ禍による新種のオミクロン株が世界に猛威をふるっていますが、一日も早く元の日常生活に戻ることを願いたいですね。

本号では、災害からの復興事業ということで、前号の熊本南部豪雨、そして本号の宮城県南三陸町での「心の復興」を自らの貴重な体験を東中自治会の矢倉さんよりの投稿、大変なご苦労があったことと思いました。また、コロナ禍で様々な活動が休止せざるを得ない中、各自治会の試みとして、南雪谷自治会の「公園スタンプラリー」での幅広い年齢層の人達が楽しく過ごすことが出来たお話は、編集委員でもあります河野さんからの明るい話題もありました。それから笹丸自治会ではホームページを立ち上げ、自治会のキャラクター「ささまるん」のキーホルダーを作成したり、いろいろ工夫をしています。

どうぞ編集委員一同、皆様の投稿に感謝し、地域のお声をお伝えしていかなければと思っております。

(笹丸・小久保 衡子)

[編集委員]

笹丸・小久保 衡子／雪谷石川台・倉田 清子／南雪谷・河野 洋一郎／
東雪谷東中・小山 智恵子／池の台・柏 三八子／小池・小山 憲生／上池上・船山 康夫

ふれあい雪谷(創刊:平成2年12月20日) 年4回発行

(1月・新年号／4月・さくら号／7月・あさがお号／10月・もみじ号／の1日発行)

[発行日] 令和4年 さくら号 4月1日(通巻第126号)発行

[発行] 地域力推進雪谷地区委員会 [編集] ふれあい雪谷編集委員会

[連絡先] 大田区地域力推進部雪谷特別出張所

〒145-0065 大田区東雪谷三丁目6番2号 ☎3729-5117 FAX3729-1826

ふれあい 雪谷

令和4年4月 さくら号 通巻第126号



石川台駅

この駅は映画やドラマのロケによく使われます。小津安二郎の「秋刀魚の味」、最近では吉永小百合・鶴瓶の「弟」線路沿いのこの坂道や、石川台の商店街が映画の背景に登場します。

小池・今成 修さんの作品

「ふれあい雪谷」のホームページは
こちらからご覧いただけます。



宮城県南三陸町 『災害からの復興』に必要なもの

■被災地であることを生々しく思った瞬間

東日本大震災の発生から2年後の2013年4月、宮城県北部の南三陸町からの委託業務のため現地に赴任した私が、閉鎖された中学校体育館に積み上げられたおびただしい数のランドセルの山を見た。震災発生後に被災地の子ども達にランドセルを送る活動のことを聞き、周囲の仲間達にランドセルはないかと尋ねたことを思い出し、ここがまさしく被災地なのだと生々しい思いに至った。

■東日本大震災での南三陸町の被災

南三陸町では、あの日高さ16mを超す津波が町を襲った。町内の住宅6割にあたる約3,300戸が被災し、約800人が犠牲となった。

役場職員の遠藤未希さん（津波で犠牲）が「高台に避難して！」と防災無線で呼び続けた高さ12mの防災対策庁舎は、現在、被災状態のままで復興祈念公園の中に2031年までの20年間の期限で保存されている。

■復興事業は住宅再建から

南三陸町の復興事業での最重要課題であったのが、町内外の約60ヶ所・約2,150戸の仮設住宅に住む被災者の住宅確保であった。過去に何度も津波被害を受けた経験から、町は二度と津波被害に遭わないよう住宅地の高台移転を決め、私が携わった支援業務では被災者意向調査結果を基に住宅再建用宅地約1,000戸分の造成計画、新たな町営住宅約1,000戸の建設計画をまとめたが、建設用地確保の難航、建設材料費の高騰、建設技術者不足など遅延要因がいくつも重なり、スケジュールはどんどん遅れることになった。それでも、被災から1年9ヶ月後には町内最初の高台移転団地『藤浜団地』が完成したが、その後も遅延要因は解消されず、結局28団地の全てが完成したのは被災から6年後であった。

この間、夢見た新たな住まいの実現を待ちきれず、町外移転する人々が相次ぎ、最終的には宅地造成約840戸分、公営住宅建設約740戸まで減らすことになったが、仮設住宅で入居を待つ人々に工事現場見学会を行って「貴方の住まいはここになりますよ！」と説明したり、キッチンのショールーム見学会を行って「新しい住まいではオール電化にしますか？」と尋ねたりして、とにかく“心が折れてしまわないよう”あの手この手で気分を煽った。

■コミュニティによる「心の復興」がもたらす

人が生きていく上で、住まいは最も重要な基礎となるものの一つであるが、住宅という『ハコ』があるだけでは生活の彩りは満たされない。南三陸町など東北沿岸被災地では、都会などよりコミュニティの繋がりはとても強く、それだけに被災後に町を離れていく人々は、そしてそれを見送る人々は限りなく寂しそうであった。復興とは住まいや産業だけでなく、コミュニティの継続や再構築、そして「心の復興」があつて成し遂げられるのである。

(東雪谷東中・矢倉 信行)

公園スタンプラリー

私たちの南雪谷自治会では、コロナ禍で様々な活動を休止せざるを得ない中、新たな試みとして「公園スタンプラリー」を開催しました。

始まりは、当地区シニアクラブの南雪会が約100人の会員を対象として令和2年7月に開催した「掲示板スタンプラリー」でした。これは、自治会の11か所の掲示板に示された文字を拾い集め、できた文章を解答として賞品と引き換えるイベントで、コロナ禍で引き籠もりがちな高齢の方に楽しみながら散歩をしてもらおうというのがねらいでした。

「掲示板スタンプラリー」は、参加者それぞれが開催期間中の都合の良い日時に参加するので三密にならずに実施することができます。当自治会ではこれに着目し、対象を約2400人の自治会員とその家族に広げて開催する事にしました。参加者には散歩の他に簡単な体操も楽しんでもらいたかったので、目標を掲示板から地区内6か所の公園に変更し、公園内にクイズと体操のイラストが描かれたカードを掲示することにしました。クイズも、カードごとに動物や花を描き、その名前を当てるものにしました。これを「公園スタンプラリー」と名称を改め、令和2年9月に1回目を開催しました。1回目は賞品引き換え日を開催期間の後に設けたため、参加者が家族や友達の分を代表して引き換える際の確認ができず、混乱を生じました。これを省み、令和3年10月に開催した2回目は公園の1つをゴールとし、その場で参加者一人ひとりに賞品を渡すことにしました。公園に掲示するカードの作成は大田区理学療法士会にお願いし、賞品の引き換えは地域包括支援センター上池台に手伝っていただきました。

当初は高齢の方の参加を想定していましたが、いざ蓋を開けてみると家族連れの若い方が多く、1回目は260人、2回目は470人の方に参加していただきました。目標を公園にしたりクイズを楽しいものに代えたりしたことが功を奏したのかも知れません。陽光の中、親子が地図を片手に楽しそうに次の公園へ向かう様子や、公園で一緒にスマホで検索したりしながら答を考える様子は開催者にはとても微笑ましく、賞品を引き換える際には、「こんなに楽しいイベントを開催してくれてありがとうございます。」との感謝の言葉も多数いただきました。

コロナ禍が続く中で三密を避けながら実施することを想定した「公園スタンプラリー」ですが、幅広い年齢層の多くの皆さんに楽しんでいただける事がわかったので、少しずつ改良を重ねながら、今後も当自治会の年中行事の一つとして開催していくたいと思います。

(南雪谷・河野洋一郎)



皆さんこんにちは！

石井前会長の後を引継ぎ、昨年の6月から新会長になりました池の台自治会の前川です。私は当地の出身で小池小、六中に学び学業が終わるまで住んでいました。ところが社会人になると会社勤務で地方での生活が長くなり、帰省する程度の地になってしまい地域の方々との交流はほとんどありませんでした。13年ほど前一人で住んでいた母が亡くなり、実家が無人にならない様にと、10年ほど前に転居してきました。その時は何も考えていませんでしたが、生まれ育った地に少しあは恩返しができたらと思い3年ほど前に自治会に参加させていただきました。まさか会長になるとは思っておらず、気楽に参加していました。ところが石井会長から強い勧めがあり、今頃大任をおおせつかりことになりました。

自治会活動の本質や地域のお役に立てるにはどうしたら良いのかなど、基本的なこともわかっていますので、これから学ばなければなりません。副会長や理事などの諸先輩の皆様に助けていただき、勉強させていただきながら、住み良い町作りのお手伝いをさせていただきたいたいと思います。もともと、治安も良く風光明媚な洗足池を望む地に生活できることに喜びを感じられる町です。これからも池の台自治会をよろしくお願ひいたします。

(池の台・前川 忠成)

ここに泉あり、六中卒70年、 地域活動20年

歳月は人を待たず、と申しますが区立「大森第六中学校」を卒業して今年で、満70年の佳節を刻みます。ますます愛着を覚える今日この頃でございます。

愛着といえば「小池自治会」地域内の終(つい)の棲家(すみか)と定め、自治会活動へのお誘いを受けて満20年、お世話になっております。お世話にと申しますとこんな「召集令状」を地主の自治会長から直に玄関で。厚紙に曰く『委嘱状 沼本光史殿 あなたを当自治会理事に御委嘱致します。自治会活動の推進に 御協力をお願い致します。』大田区小池自治会長&でかい朱色の角判ドシン！口頭で老人会をよろしくとの“言い渡し”ハイ、わかりましたと相成りました。

正直、その大誠実さに感服・感激、以後、私なりの及ばずながらの恩返しの心を堅持して、今に至っております。

恩返しといえば『老人会』という言葉、私的には大嫌い。当時の「小池白寿会」冗談じゃない、と「小池シニアくらぶ」と変更、この10年で55人から117人の仲間が集まっております。ここに泉あります、楽しくなければ、行って良かった、とならなければ人は集まりませんし、やる気を出してはいただけませんから…。

(小池・大田区シニアクラブ連合会会長・沼本 光史)